

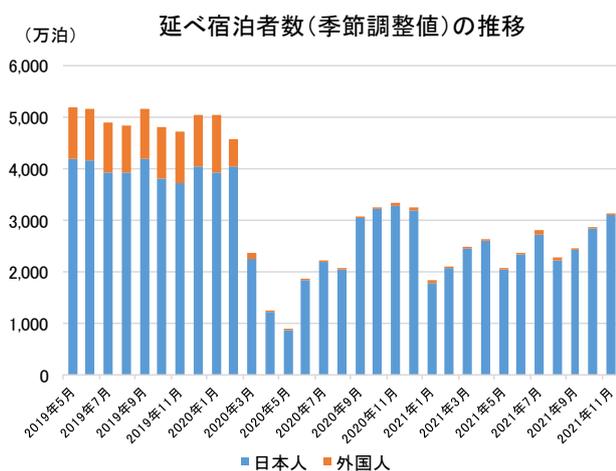
Economic Indicators

発表日：2021年12月24日(金)

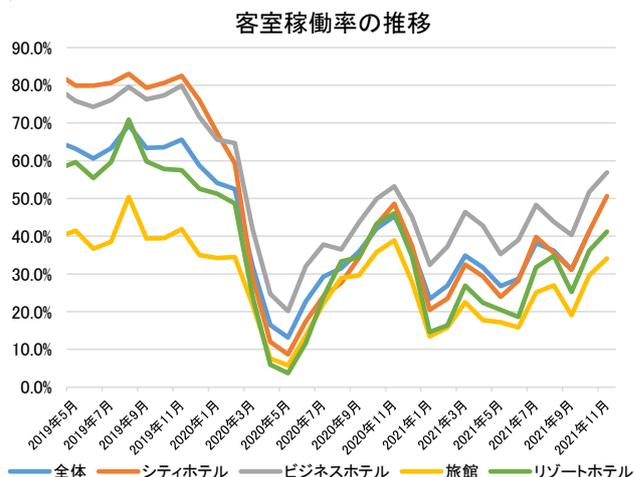
宿泊旅行統計調査(2021年11月)

～感染状況が落ち着きを見せる中、宿泊者数は回復の動きが続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 小池 理人 (TEL:03-5221-4573)



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」
※季節調整は第一生命経済研究所



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

○感染状況が落ち着きを見せる中、宿泊者数は回復の動きが続く

12月24日に観光庁から発表された21年11月の延べ宿泊者数は3,562万人泊となった。新型コロナウイルスの影響が出る前の前々年比でみると▲28.3%（10月：前々年比▲36.9%）と減少幅を縮小し、季節調整値（季節調整は第一生命経済研究所）では前月比+5.3%（10月：同+41.3%）の増加となった。感染状況が落ち着きを見せる中で人出が増加したことにより、11月は宿泊者数の増加が継続する結果となった。それに伴い全体での客室稼働率は46.0%と、改善が続いている。

○宿泊者数は回復の動きが見込まれるが、感染状況悪化のリスクは煽っている

今後の延べ宿泊者数（季節調整値）の動向については、感染状況の改善を受けた人出の増加を背景に回復が続くと見ている。日本国内におけるワクチン接種率は75%を超え、感染状況も落ち着いていることから、人出にも回復の動きが見られている。これまでの延べ宿泊者数（季節調整値）と移動データの相関から考えると、12月についても、コロナ後としては高水準での宿泊者数の推移が継続することが見込まれる。また、再開時期は不透明であるものの、今後はGoToトラベルキャンペーンの再開が見込まれることも追い風だ。新しいGoToトラベルでは、旅行代金の割引に止まらず、低価格帯の旅行商品や地方への恩恵の波及を意識した制度設計がなされており^{注1}、今後GoToトラベルキャンペーンが再開されることになれば、宿泊者数の一層の押し上げが期待される。一方で、外国人宿泊者数につ

注1 12月16日付レポート「[新しいGoToトラベルは観光需要回復の切り札となるか～2020年実施のGoToトラベルから変更された、注目すべき5つのポイント](https://www.dlri.co.jp/report/macro/176194.html)」

(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/176194.html>)

いては今後も底這い圏での推移が見込まれる。感染状況の改善を受けて、徐々に水際対策の緩和が進展していたが、新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の感染が海外で拡大していることを受けて、11月末より外国人の新規入国原則停止など、水際対策が強化されている。1ヶ月を目途とする水際対策の強化であったが、海外におけるオミクロン株の感染が拡大していることなどから、年明け以降も水際対策の強化は延長されることになっており、外国人宿泊者数は当面の間底這い圏の推移が続くだろう。日本国内での感染状況が落ち着いており、海外の感染状況が悪化しているという対照的な状況となる中、水際対策を早期に緩和することは想定し難い。

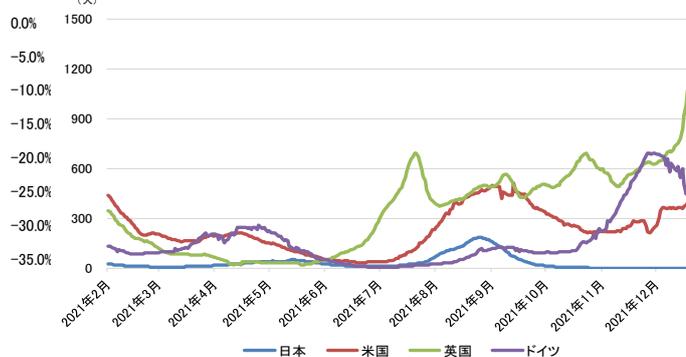
リスク要因としては、第6波の到来が挙げられる。足もとでの国内感染状況は落ち着いているものの、人出の回復に伴う接触機会の増加や気温低下、オミクロン株の出現など、感染が拡大するリスクは依然として燻っている。感染が再拡大する場合には、旅行手控えや行動制限の強化、GoToトラベルキャンペーンの再開時期の後ずれ等、回復傾向にある宿泊需要に再び冷や水を浴びせる展開が想定されるため、今後も感染動向について注視する必要があるだろう。

(2020年2月=100) 延べ宿泊者数と移動データの推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」
※季節調整は第一生命経済研究所

100万人当たりの新規感染者数(7日間移動平均)



(出所) Our World in Data

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。